



2026年5月期 第3四半期決算説明資料
(2025年6月1日～2026年2月28日)

2026年4月10日

小津産業株式会社

証券コード7487

売上高: 8,085百万円 対前期比 + 3.8%

AI関連や光学関連市場向け製品需要が好調推移
ウェット製品やコスメティック製品が堅調推移、前年同期比微増

売上総利益: 2,701百万円 対前期比 + 4.1%

AI関連、光学関連およびウェット製品、コスメティック製品が堅調等の理由で増益

営業利益: 526百万円 対前期比 +15.0%

増収に伴う売上総利益の増益により、販管費増加分を吸収し増益

経常利益: 717百万円 対前期比 + 21.1%

受取配当金、為替差益の増加等により増益

親会社株主に帰属する
四半期純利益: 503百万円 対前期比 + 32.3%

各段階利益の増加により増益



1.	2026年5月期 第3四半期決算概要	3
2.	2026年5月期 業績見通し	7
3.	各事業分野の主要動向	11
4.	参考資料	22



1. 2026年5月期 第3四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. 参考資料

業績のポイント

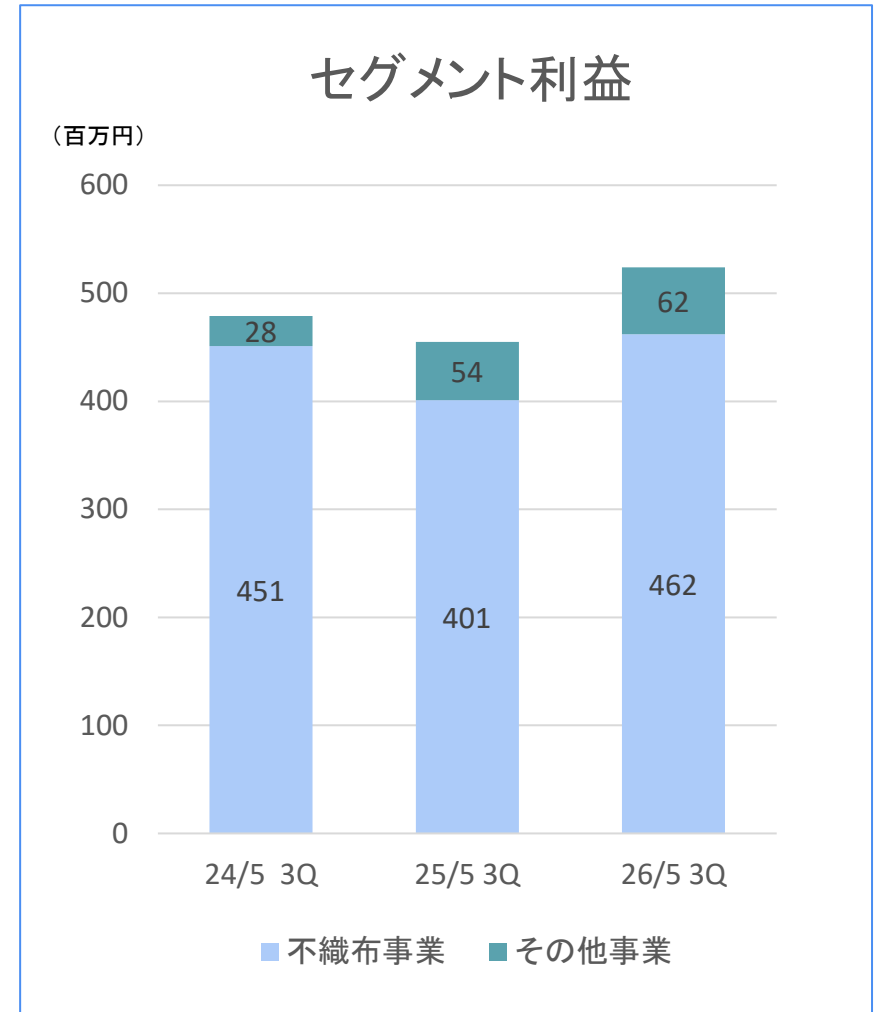
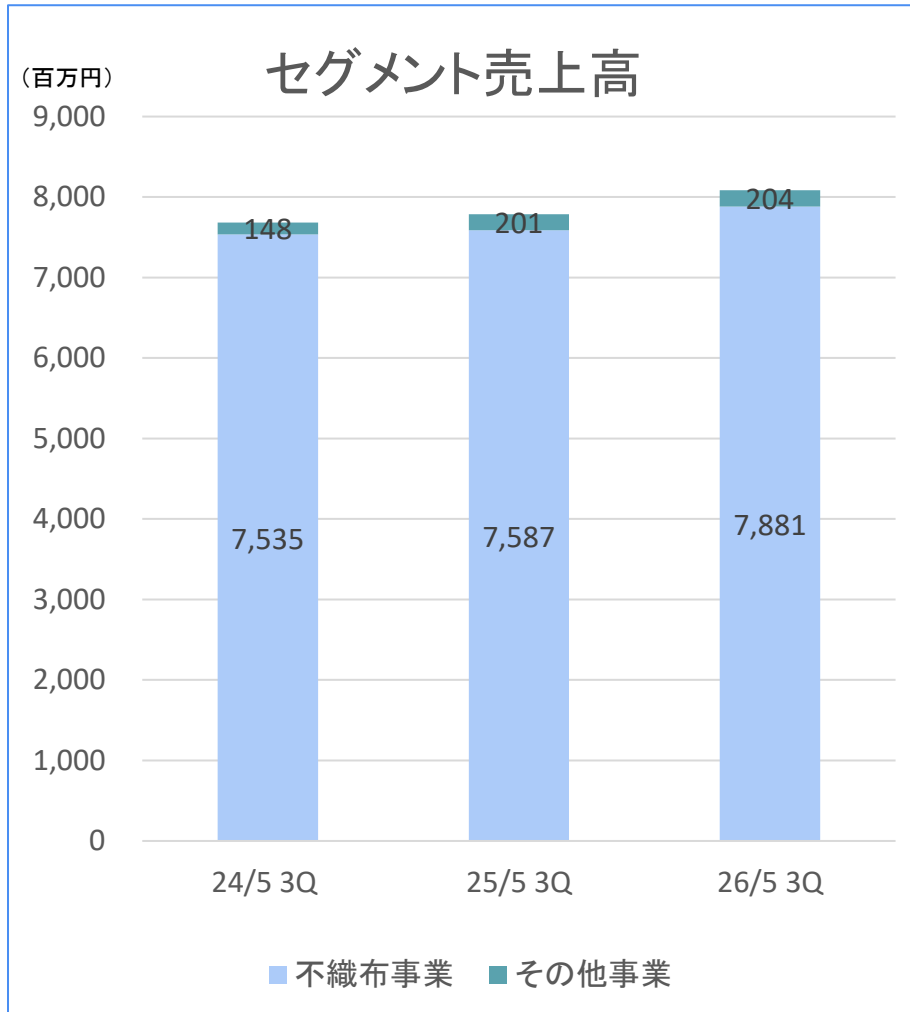
- 前年同期比、売上高が微増、利益面が増加
- 主要因

クリーン分野において、生成AI市場の成長に伴い、AI関連部品の生産が好調、海外では車載、産業機器向け光学関連製品の生産が堅調に推移し売上に寄与
ウェルネスケア分野において、コスメティック製品のインバウンド需要減少はあるものの、既存顧客向け製品販売が堅調、ウェット製品は販売品目数を増やしたことで堅調に推移し売上に寄与

(百万円)	25/5期		26/5期		前年同期比
	3Q実績	構成比	3Q実績	構成比	増減額
売上高	7,788	100.0%	8,085	100.0%	296
売上総利益	2,593	33.3%	2,701	33.4%	107
販売費及び一般管理費	2,135	27.4%	2,174	26.9%	38
営業利益	457	5.9%	526	6.5%	68
経常利益	592	7.6%	717	8.9%	125
親会社株主に帰属する 四半期純利益	380	4.9%	503	6.2%	123

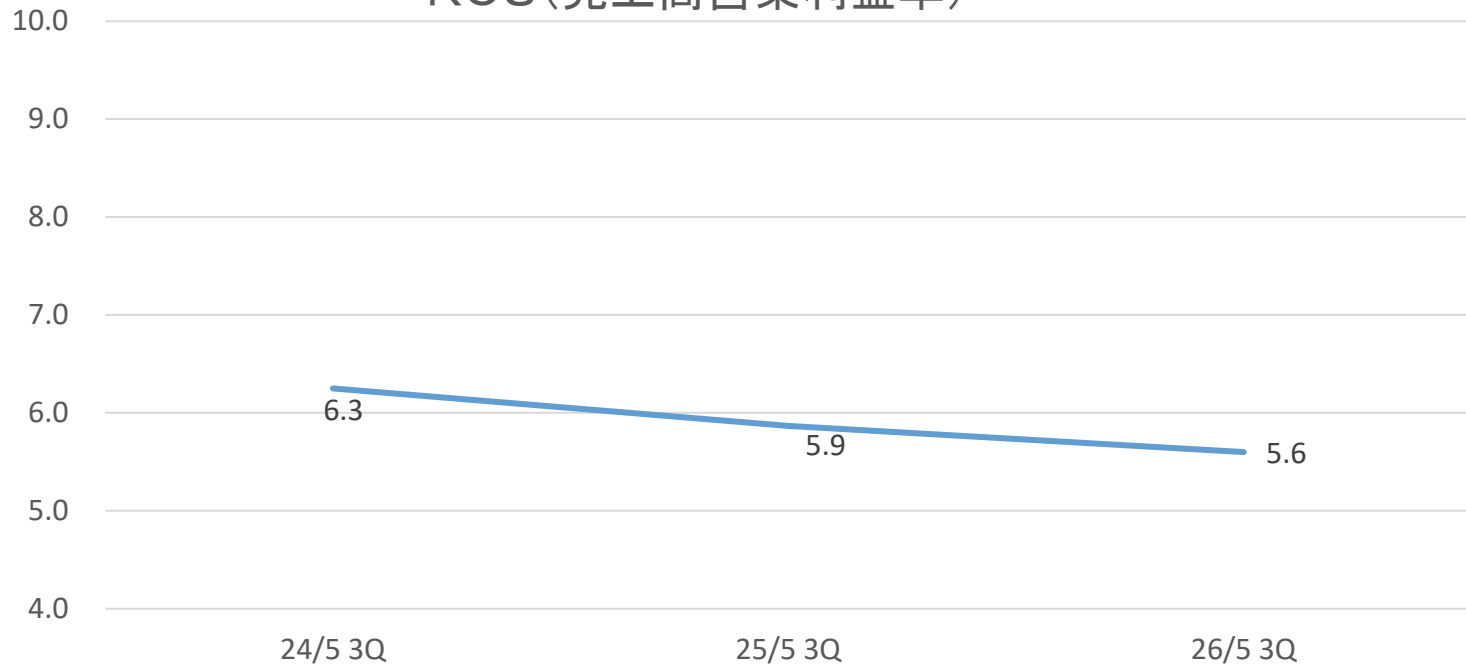


不織布事業＋その他事業の業績推移



経営指標の推移

ROS(売上高営業利益率)



- AI関連、光学関連市場向け製品、ウェット製品、コスメティック製品が堅調に推移するも、人件費等販管費の増加を主因に第3QのROSは、前年同期比減少
- 長期ビジョン「OZU Innovation2034」の実現の土台づくりとして、人材確保、市場調査・研究開発費等へ戦略的に投資を実施



1. 2026年5月期 第3四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. 参考資料



業績予想の上方修正

好調な業績進捗を踏まえ、通期業績予想を再度上方修正

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2026年1月9日公表)	10,500	410	570	370	43.99
今回修正予想(B) (2026年4月10日公表)	10,500	450	670	430	51.11
増減額(B-A)	—	40	100	60	—
増減率(%)	—	9.8	17.5	16.2	—
(参考)前期実績 (2025年5月期)	10,220	430	559	408	48.64

修正の理由

- クリーン分野(電子・食品・製薬等)において、国内外ともにAI関連市場向け製品需要が好調推移、ウェルネスケア分野(医療・介護・コスメ等)において、ウェット製品・コスメティック製品の需要が堅調推移したこと等により、前回公表した予想数値を上回る見通し
- クリーン分野およびウェルネスケア分野において、第3四半期迄に第4四半期予定の受注を先行受注した一方、第3四半期迄に予定していた販管費の支払いが第4四半期に後倒しとなったため、通期の各段階利益は、第3四半期迄実績を下回る見込み



業績予想概略

売上高:10,500百万円 前期比 280百万円

- クリーン分野において、国内外ともにAI関連市場向け製品需要が好調推移したこと、ウェルネスケア分野において、ウェット製品・コスメティック製品の需要が堅調推移したこと等により、前回公表した予想数値を上回る見通し

営業利益:450百万円 前期比 +20百万円

- クリーン分野およびウェルネスケア分野において、第3四半期迄に第4四半期予定の受注を先行受注した一方、第3四半期迄に予定していた販管費の支払いが第4四半期に後倒しとなったため、通期の各段階利益は、第3四半期迄実績を下回る見込み

(百万円)	25/5期		26/5期(2026年4月10日公表値)		前期比 増減額
	実績	構成比	予想	構成比	
売上高	10,220	100.0%	10,500	100.0%	280
営業利益	430	4.2%	450	4.3%	20
経常利益	559	5.5%	670	6.4%	111
親会社株主に帰属する 当期純利益	408	4.0%	430	4.1%	22

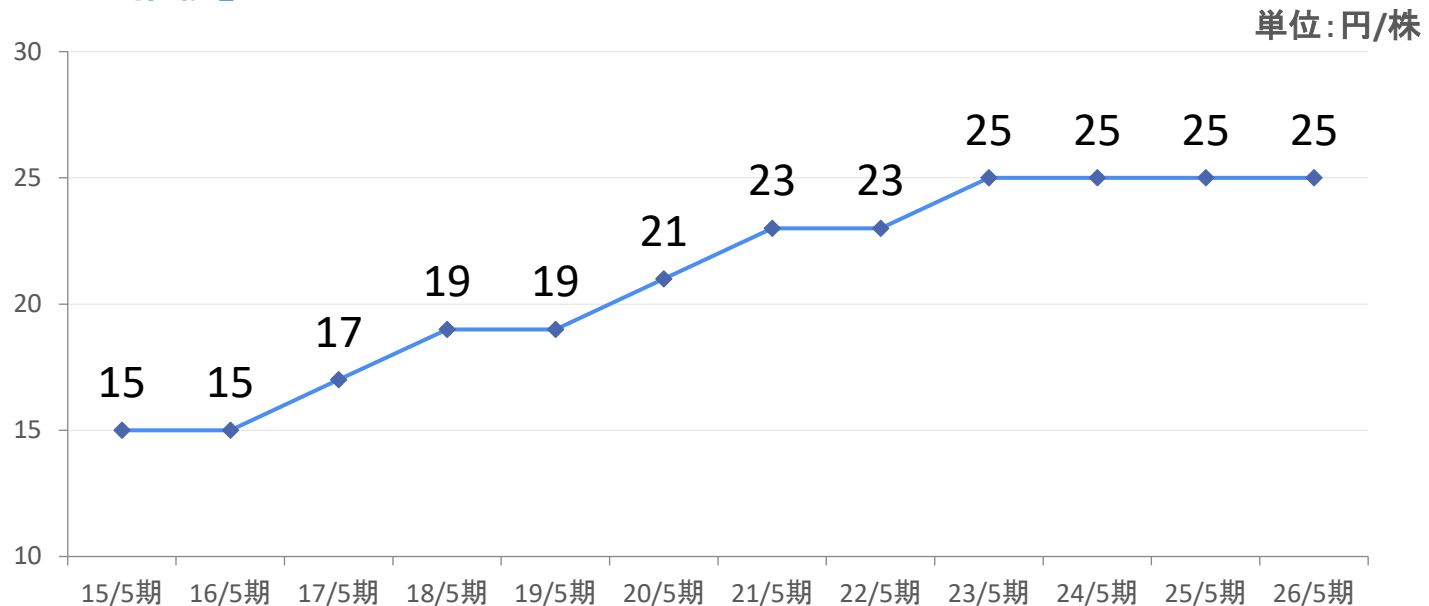
株主還元方針

株主さまに対して、長期的に安定した利益還元を行うことを基本方針としつつ、合わせて当社グループの企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保の確保を総合的に勘案し、株主還元を行います。

加えて、株主さまへの利益還元を充実するため、業績に多大な影響を与える事象の発生がないかぎり減配は行わず、増配を目指して業績向上に努めます。

現時点においては、2025年5月期と同様の、一株あたり25円の配当を予定しております。

【配当金推移】





1. 2026年5月期 第3四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
- 3. 各事業分野の主要動向**
4. 参考資料



第一次中期経営計画2027基本方針

- 長期ビジョン「OZU Innovation2034」の実現のための土台づくり
“自ら製品を企画・開発・生産する機能を備えた商社”への発展を目指す
- 発展を支える地道な活動の実施
お客さまニーズ等の情報収集活動の展開
外部環境変化に的確・迅速に対応

計量計画

- 2027年5月期（最終年度）
売上高：10,500百万円 営業利益：300百万円

進捗状況

- 事業戦略室を核とした新用途・新機能の開発、新事業の探索
⇒約70案件を検討、複数案件が進行中 早期の具現化を目指し一層強力に推進
⇒今後の更なる事業成長の推進のため、戦略の鋭角化を推進
- 長期ビジョン実現のための土台づくり
⇒人事制度の改定を行い、組織の新陳代謝と活性化の維持、評価制度および報酬制度の透明化向上に努め、長期ビジョン達成に向けた人材育成に引き続き注力
⇒小津上海を軸とした購買機能の体制づくりなどの海外拠点の見直し
⇒生産機能の拡充として、国内加工場の最適化検討および共同購買機能導入検討

不織布事業(分野)	事業の概況
クリーン分野 (電子・食品・製薬等)	半導体、自動車、製薬、食品工場等の製造現場で使用される不織布製品の企画・販売 日本を始め、アジアを中心に先端技術産業を側面からサポート
ウェルネスケア分野 (医療・介護・コスメティック等)	病院・介護施設向け感染対策製品や防災製品および国内外の化粧品メーカーの お客様ブランドの商品を企画・製造販売
エコプロダクツ分野 (鉄鋼・電力・建設等)	インフラを支える製造環境の改善製品を販売 「エコ」をキーワードに幅広い環境対応製品の企画・販売を推進
コンシューマー分野 (一般消費者向け)	マスク・ウェット製品等の一般消費者向け製品の企画・販売 YoutubeなどのSNSを活用し、商品のPRや認知度アップに努める
小津(上海)貿易有限公司	中国における販売・購買の拠点 中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を推進
(株)ディプロ	小津グループの生産拠点 化粧品や医薬部外品等の高付加価値製品を生産
日本プラントシーダー(株)	農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開 省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開

その他事業	事業の概要
除菌関連事業 (エンビロテックジャパン(株))	食品添加物として過酢酸製剤を販売(米国FDA認証、2016年厚労省認可) フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の販売を推進
不動産賃貸業	不動産賃貸事業を営む



クリーン分野(電子・食品・製薬等)

事業の概要

半導体・自動車・食品・航空・製薬等、製造現場の清拭ワイパーとして不織布を展開
様々な製造現場に、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約35% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・国内外でA I 関連需要が好調に推移
- ・製薬関連需要も堅調に推移
- ・海外で光学関連需要も好調に推移

売上高、利益面ともに前年同期比増加

今後の取り組み

- ・需要旺盛の継続が予想されるA I やデータセンター関連への拡販
- ・エンビロテックジャパンと連携し、食品分野への新規販売先を開拓
- ・中国から東南アジアへの生産シフトに伴い、東南アジア市場へ注力

【取扱製品例】

「ワイパー(ベンコット®)」



「航空用ワイパー」



「厚手紙ワイパー」



「熱中対策 汗拭きシート」



※「ベンコット®」は旭化成の登録商標です。



事業の概要

不織布と加工の技術をより発展させ、生き活きとした日常生活に貢献
高品質な医療・介護製品、スキンケア商材を開発し、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約25% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・ ウェット製品の需要は堅調に推移
- ・ コスメ製品の国内需要も堅調に推移

売上高は横ばい、利益面は前年同期比増加

今後の取り組み

- ・ 在宅介護製品、防災備蓄製品の開発・拡販
- ・ メディカルとコスメの融合を図り、製品開発を継続
- ・ ウェルネスケア（＝心身健康）に寄与する製品の開発を目指す

【取扱製品例】

「ワイパー」



「流せるおしりふき」



「フェイスマスク」



「ウェットシート」





エコプロダクツ分野(鉄鋼・電力・建設等)

事業の概要

インフラを支える製造環境の改善に貢献
生活基盤を支える領域に、機能性を持つ製品を展開し、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約5% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・工場向け消耗資材の販売は堅調に推移
- ・除染布(五大力)の受注が当初計画を下回る

売上高は前年同期比減少、利益面は横ばい

今後の取り組み

- ・環境対策品オイルテイクアを軸とした環境にやさしい製品を幅広い分野に拡販
- ・「エコ」をキーワードとした新製品開発
- ・除染関連事業からの撤退を決定(今期業績への影響なし)

【取扱製品例】

「油吸着材(オイルテイクア)」



「熱中対策 汗拭きシート」





コンシューマー分野(一般消費者向け)

事業の概要

新しい機能を開発・強化、人に優しい製品で生活に貢献
機能性を持たせた不織布製品を通じて、日常生活に「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約3% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・ マスク販売は苦戦、
ドラッグストア等向け除菌ウェット
製品やメガネクリーナーが堅調に推移
- 売上高は前年同期比増加、利益面も改善

今後の取り組み

- ・ 株式会社ディプロ製のウェット製品、
マスク製品等の拡販
- ・ 現在の商品カテゴリーにとらわれない
不織布コンシューマー製品開発継続
- ・ 新たな販売網であるECサイトの立上げと
本格稼働

【取扱製品例】

「マスク(マスマイク)」



「除菌ウェットワイパー(ケアウィル®)」



「メガネふき」





事業の概要

中国における販売・生産・購買の拠点

中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を通じ、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約3% ※連結 2025年5月期業績予想ベース

第3四半期までの実績

- ・光学関連向けの販売が好調に推移

売上高、利益面ともに前年同期比増加

今後の取り組み

- ・半導体関連企業、光学関連企業を中心に営業活動継続
- ・購買拠点として、中国不織布メーカーの情報収集に引き続き注力
- ・グループ会社（小津産業、ディプロ）向けの製品購入窓口機能の強化



株式会社ディプロ

事業の概要

小津グループの製造拠点

化粧品や医薬部外品等の高付加価値製品を生産し、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約15% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・ OEM品の販売が低調に推移
- ・ 加えて、原価低減と経費減少に尽力

売上高は前年同期比減少、利益面は増加

今後の取り組み

- ・ 製品ラインナップ拡充と、小津産業との連携による販売強化
- ・ 企画・開発力の強化、製造機能の活用・拡充による高性能製品開発
- ・ 生産性および品質の向上と原価低減の実現

【工場全景】



【当社設備事例】



【取扱製品例】

「高濃度アルコール除菌シート」



事業の概要

農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開
省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開し「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約10% ※連結 2025年5月期業績ベース

第3四半期までの実績

- ・ 機械販売が好調に推移
- ・ 国外での資材販売が苦戦

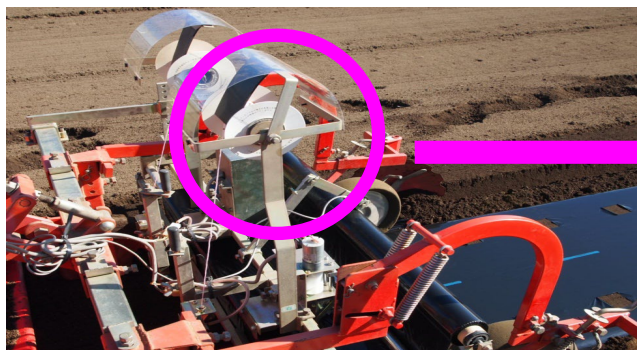
売上高は横ばい、利益面は前年同期比増加

今後の取り組み

- ・ きめ細かい対応、播種機販売を起点とした主力製品の拡販
- ・ シーダー農法対象作物、新規マシン開発の加速化
- ・ 新規事業部を設置、小津産業と連携を強化し、新規事業の探索に注力

【取扱製品例等】

「シーダーマシン(あけマルくん®)」



「シーダーテープ」



「東北営業所」



事業の概要

食品添加物の過酢酸製剤を販売（米国FDA認証、2016年厚労省認可）
フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の拡販により、「より清潔・より快適」を提供

売上構成比率

約2% ※連結 2025年5月期業績予想ベース

第3四半期までの実績

- ・ 過酢酸製剤の効用訴求活動の継続実施により新規採用先増加も、研究開発などの費用が増加

売上高は前年同期比横ばい、利益面は減少

今後の取り組み

- ・ 食品殺菌、畜産分野の防疫対策用途としての過酢酸製剤の拡販
- ・ 更なる業容拡大のため、データ・ノウハウ・現場力の蓄積
- ・ 代理店、セミナー・Web会議の活用、効率的・効果的な営業活動の一層強化

【取扱製品例等】



※過酢酸製剤使用例



※泡除菌剤の使用例



「過酢酸製剤（パーサン®）」



1. 2026年5月期 第3四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. **参考資料**

2026年5月期 第3四半期連結貸借対照表



(百万円)	25/5期 5月末	26/5期 2月末	増減額
流動資産	13,986	13,876	△110
固定資産	12,427	12,500	72
総資産	26,414	26,376	△37
流動負債	3,878	3,395	△483
固定負債	3,316	3,368	51
負債合計	7,194	6,763	△431
純資産	19,219	19,613	394
自己資本 比率	72.4%	73.9%	1.5%

主な増減要因

■ 資産	
投資有価証券	98
受取手形及び売掛金	89
現金及び預金	△286
■ 負債	
支払手形及び買掛金	△189
未払費用	△153
■ 純資産	
利益剰余金	293

小津グループ概要

- 1653年(承応2年)創業の和紙問屋を起源とする「紙と不織布」の製造商社
- 現在では、クリーン分野、ウェルネスケア分野、エコプロダクツ分野、コンシューマー分野などを展開
- 機能性不織布製品の企画開発から製造・販売までをメインとした幅広いサービスを提供





小津産業株式会社概要

会社名 小津産業株式会社

本社所在地 東京都中央区日本橋本町3-6-2

創業 1653年(承応2年)

設立 1939年(昭和14年)12月6日

資本金 13億2,221万円

証券コード 東証スタンダード市場 7487

事業内容 不織布・紙製品等の販売・加工・ウェット製品製造、
輸出入および過酢酸製剤販売

従業員数 連結:285名 単体:97名(2025年5月31日現在)

役員等

代表取締役 社長執行役員	柴崎 治
取締役 常務執行役員	村尾 茂
取締役 常務執行役員	三崎 剛志
取締役 上席執行役員	立野 智之
社外取締役	山下 俊史
社外取締役	阿部 光伸
社外取締役	青木 常子
常勤監査役	近藤 聡
社外監査役	深山 徹
社外監査役	山本 千鶴子
上席執行役員	山田 拓
執行役員	中野 伸昭

関係会社

連結子会社	オヅテクノ(株) 日本プラントシーダー(株) (株)ディプロ 小津(上海)貿易有限公司 エンビロテックジャパン(株) (株)旭小津
持分法適用関係会社	アズフィット(株)



本資料に関するお問い合わせ

小津産業株式会社 経営企画室

Email : soumu@ozu.co.jp

<https://www.ozu.co.jp/>

本資料の取り扱いについて

- ・本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ・別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ・当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ・当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。